

平成 15 年 5 月 20 日

核燃料サイクルのあり方を考える検討会（第 8 回） 意見要旨

三菱マテリアル株式会社 石井 保

原子力の必要性

- ・ 日本経団連声明 - エネルギーの安定供給を最優先に
- ・ 安定供給のためには、エネルギー政策の自主性を高めることが必要
国内エネルギー生産量（エネルギー自給率）の向上を図る。
- ・ 自然エネルギーによる供給能力の限界に対し、共通認識を持つ。
その位置付けにつき冷静な分析に基づく再確認が必要
- ・ 電力供給目標の達成努力と京都議定書の国際的公約の整合性を
- ・ 原子力の健全な推進が、わが国の 3 E（エネルギーの安定供給、環境への適合、経済性の確保）の達成に不可欠
- ・ 自由化と長期計画とは相容れない側面を持つ。長期計画に基づいて実施する原子力には、単純自由化とは別の枠組みが必要

核燃料サイクルの必要性

- ・ 原子力利用は自然の摂理（局所的エントロピーの減少）に基づくもの。この特質を生かすには、核燃料サイクルが必要
- ・ プルトニウムリサイクルの意義と高速炉の必要性
- ・ 核燃料サイクルは長期的なビジョンのもとに計画的に進めることが必要
- ・ 再処理に関する先人の努力を、確実に将来へつなげていくことが、現在の私たちの義務である。再処理への取り組みは今が肝要
- ・ プルトニウム利用の着実な推進
- ・ 高レベル放射性廃棄物の処分に向けて
- ・ バックエンドを支える研究開発の重要性
- ・ バックエンド対策は、著しく遅れを取って来たが、今ようやくその対策が本格化しようとしている。関係者がベクトルをそろえて対処することが、日本の国益に適う。